



あけましておめでとうございます

新年おめでとうございます。ご家族で、よい年をお迎えのことと存じます。今年も川角八幡神社に行き、川角小学校の児童と職員が安全・安心な学校生活が送れるようにお願いしました。冬休みが終わり子供たちの元気いっぱいの声が川角小に戻ってきました。本年も子供たちが元気な笑顔で学校生活を有意義に過ごせるよう、教職員一同力を合わせてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

2026年は、干支でいうと「丙午（ひのえうま）」にあたります。丙午は、十干の「丙」と十二支の「午」が組み合わさった干支で、火の要素を二重に持つことから、「情熱的で強い意志を持ちながらも、激しさや変化を伴う」といった意味合いを持つ年とされています。「丙」は太陽のような明るさ、情熱、決断力を象徴し、生命の力強い成長段階を表します。「午」は成長や成功・繁栄のシンボルとして、縁起のよいものとされています。丙午の年は「火」のパワーが高まる時期とされ、大きな決断をすることで物事が好転するといわれています。これまで踏み出せなかつたことなど、新しいことに挑戦してみましょう。「人間万事塞翁が馬」ということわざのように、あるよくないことがあっても、それは次に来るよいとの原因になったり、またそのよいことも、次に来るよくないとの原因になったりする、人生というのはどう転んでいくかわかりません。よくないと思えることも長期的には良いことにつながると信じて、一歩ずつ前進していきましょう。



人間万事塞翁が馬

昔、要塞の近くに住んでいるおじいさんがいました。そのおじいさんは馬を一頭持っていたのですが、ある日その馬が逃げてしまったのです。周囲の人たちは「おじいさん、損をしたね」と言ったのですが、おじいさんは「いやいや、そうとは限らない」と言いました。そうこうしているうちに、なんとその馬が帰ってきたのです。しかももう一頭馬を連れて。周囲の人は「おじいさん、得をしたね」と言いました。でもおじいさんはまた「いやいや、そうとは限らない」と言いました。

ある日おじいさんの息子が、その馬に乗って落馬して骨折てしまいました。周囲の人は「おじいさん、大変なことになったね」と言いました。でもおじいさんは「いやいや、そうとは限らない」と言いました。そのうちにその国で大きな戦争が起こり、元気な若者たちはみんな兵隊にとられましたが、おじいさんの息子はけがをしていたので、兵隊にとられることがありませんでしたというお話です。

